

## 旧広島陸軍被服支廠の今後の検討について

〔令和 3 年 4 月 1 9 日〕  
経営企画チーム

## 1 概要

- 被服支廠について、2月定例会での議論を踏まえ、今後の進め方を整理する。

## 2 検討の方向性について

- 2月定例会における県議会との議論を踏まえ、スケジュールとあわせて、「1棟保存、2棟解体」の現行方針案の見直しも含め、最終的な方向性を検討・整理していく。  
併せて、建物の安全対策は、周辺への影響に鑑みると、早急な検討が必要であると考えており、その検討にあたっては、将来の利活用に支障がなく、また、費用が低廉となる耐震補強工法を選択する必要があることなどを念頭に、早急に検討を進めていく。  
また、国や広島市に当事者の立場で参画いただきながら、利活用策の検討を進める。

## 3 安全対策について

- 安全対策は早急に検討を行う必要があり、耐震性を確保しつつ、内部見学などの利用が可能となる安全対策と最小限の利活用を同時に実現するパターン（パターン2）を基に、次の視点で検討を進めるとともに、安全対策に係る実施設計について調整を進める。  
【視点】 ・将来の利活用に支障がないこと  
・費用が低廉となる耐震補強工法を選択すること
- 国や広島市に対しては、このパターン2を基に、費用が低廉となる耐震補強工法を検討していく旨を説明し共有した。

## 4 利活用策の検討

- 利活用策については、建物が持つ価値として、国指定重要文化財級の国内最古級RC造建築物群であり、被爆の実相を未来に伝える建物であることを最も重視しながら、次の点から利活用のあり方を検討していく。
  - ・ これまで本県において、検討されてきた利活用構想の内容  
※ 「瀬戸内海文化博物館構想」や「エルミタージュ美術館分館構想」
  - ・ 広島市から提案のあった被爆建物としての価値の継承  
※ 被爆建物の内部見学等による平和の発信の場
  - ・ 県民・市民等が利用できる会議室やセミナールームとしての利活用
  - ・ 博物館としての利活用
  - ・ 全国における煉瓦建物の効果的な利活用事例等  
※ 別紙「主な赤レンガ建物の利活用事例」参照
- 全国の利活用事例は、次の視点で様々な事例を調査する。
  - ・ 建物が持つ価値の発揮
  - ・ 建物の特性として持つ広大な空間の活用
  - ・ 新しい魅力の提供などによる建物の価値の継承への貢献
  - ・ 県民・市民への幅広い開放

- 国や広島市に対しては、このパターン2の実施により、平和の発信の場など最小限の利活用が可能であることや、将来の利活用に支障がないことなどを説明し共有した。
- 利活用のあり方の検討に当たっては、若者をはじめとする県民の意見を伺う手法などについても検討していく。

## 5 財源の確保について

- 国（厚生労働省）及び広島市に対して、利活用や保存棟数などの具体的な方向性を示して、費用負担を前提とした協議への参画を求める。
- 急がれる安全対策等を行った後に想定される建物の維持補修や将来の利活用が進んだ際に、必要な追加の耐震補強費などに対して、国からの支援を受けるためにも、重要文化財の指定に向けた調査を実施する。

## 6 重要文化財の指定について

- 建物の価値として、有識者から国指定の重要文化財級の価値がある旨の意見が示されており、今後、安全対策後の建物の維持補修や将来の利活用が進んだ際に必要な、追加の耐震補強費などに対して、国からの支援を受けるためにも、将来に向けた取組として、重要文化財の指定に向けた調査を実施していく。

### 【◆参考】詳細調査結果の概要

区分	利用形態		耐震性 (I s値)	R2調査 概算工事費/棟	(参考) H29調査 概算工事費/棟
①	内部 立入不可	外観を保存し、外部から見学	無 (0.46)	約3.9億円	約4.0億円
②	内部 利用可	1階は人数制限なく、2階と3階は50名程度まで内部見学など、平和の発信の場としての利用が可能。	有 (0.71)	約5.8億円	(設定なし)
③	内部を 一部活用	1階の1/3を会議室として活用が可能で、2階と3階は人数制限がなく内部見学など、平和の発信の場としての利用が可能。	有 (0.65)	約13.2億円 〔・耐震工事 約12.7億円 ・内装工事等 約0.5億円〕	約22.5億円 〔・耐震工事 約22億円 ・内装工事等 約0.5億円〕
④	内部を 全面活用	1階は博物館、2階と3階は会議室等としての活用が可能。	有 (0.65)	約17.7億円 〔・耐震工事 約12.7億円 ・内装工事等 約5億円〕	約33.0億円 〔・耐震工事(免震) 約28億円 ・内装工事等 約5億円〕

※「耐震性有」とは、I s値0.6以上（震度6～7程度の規模の地震で倒壊、又は崩壊する危険性が低い）を示している。

## ■ 主な赤レンガ建物の利活用事例

別紙

### 【事例の主な特徴】

- ・ 棟数にかかわらず、広大な空間を活用して、多用途・多機能を実現している。
- ・ 主に、博物館、美術館、図書館、物販施設、飲食施設、展示施設、会議室、見学施設として使われている。
- ・ 最近では、ホテル、スポーツ施設などにも使われている。

	施設名	建築年度	棟数	用途									機能計	運営主体	
				博物館資料館	美術館	図書館文書館	物販	飲食	展示施設・ホール	会議室等	ホテル	見学施設		スポーツ施設	公共
世	1 金森赤レンガ倉庫(北海道)	1887	5				●	●	●				3		●
	2 富岡製糸場(群馬県)	1872	3				○		○			○	3	市	
	3 東京都北区立図書館【東京砲兵工廠】(東京都)	1919	2			○							1	区	
重	4 横浜赤レンガ倉庫(神奈川県)	1911	2				●	●	●				3		●
	5 石川県立歴史博物館【金澤陸軍兵器支廠兵器庫】(石川県)	1909	3	○					○				2	県	
	6 敦賀港高橋商店レンガ倉庫(福井県)	1905	2				●	●	●				3		●
重	7 舞鶴赤レンガ倉庫群【旧舞鶴海軍軍需部本部地区】(京都府)	1901	5	○			○	○	○				4	市	
	8 築港赤レンガ倉庫(大阪市)	1923	4	●				●					2		●
	9 神戸港煉瓦倉庫(兵庫県)	1898	2				●	●					2		●
登	10 旧鐘紡洲本工場遺構(兵庫県)	1909	4			○	○	○	○				4	市	
	11 姫路市立美術館【姫路陸軍兵器支廠】(兵庫県)	1905	2		○		○	○	○				4	市	
	12 旧奈良監獄(計画中)(奈良県)	1908	5	●							●	●	3		●
登	13 倉敷アイビースクエア【倉敷紡績旧工場】(岡山県)	1889	4				●	●	●			●	4		●
	14 門司赤煉瓦ブレイス【門司麦酒工場】(山口県)	1913	4				●	●	●				3	市	●
	15 北海道庁旧本庁舎(北海道)	1888	1	○		○							2	道	
重	16 どうぎんカーリングスタジアム(北海道)	2012	1							○			2	市	
	17 秋田市立赤れんが郷土館【旧秋田銀行本店】(秋田県)	1912	1	○		○							2	市	
	18 文翔館【旧山形県庁舎】(山形県)	1916	1	○				○	○	○			4	県	
登	19 日本庄商業銀行煉瓦倉庫(埼玉県)	1894	1						○	○			2	市	
	20 法務省旧本館(東京都)	1895	1	○		○							2	国	
	21 誠之堂(埼玉県)	1916	1									○	1	市	
重	22 横浜市開港記念会館(神奈川県)	1917	1						○	○			2	市	
	23 名古屋市市政資料館(神奈川県) 【旧名古屋控訴院地方裁判所区裁判所庁舎】	1922	1			○		○	○	○			4	市	
	24 聖ヨハネ教会堂(愛知県)	1907	1									●	1		●
登	25 半田赤レンガ建物(愛知県)	1898	1				○	○	○	○			4	市	
	26 大阪市中央公会堂(大阪府)	1918	1				○	○	○	○			4	市	
	27 泉布観【造幣寮応接所】(大阪府)	1871	1									○	1	市	
登	28 大阪市水道記念館(大阪府)	1995	1			○			○	○			3	市	
	29 兵庫県公館【旧兵庫県庁舎】(兵庫県)	1902	1	○					○	○			3	県	
	30 神戸文学館【関西学院初代チャペル】(兵庫県)	1904	1			○			○	○			3	市	
重	31 福岡市文学館【旧日本生命保険会社九州支店】(福岡県)	1909	1			○			○	○			3	市	
	計		64	9	1	9	12	14	20	11	2	5	1	84	

※「公共」には指定管理制度により維持管理している施設を含む。

※「世」:世界遺産,「重」:重要文化財,「登」:登録有形文化財